

音楽のおくりもの Information

Spire_M

中学・高校版
通巻第23号

p.2

平成24年度用
中学音楽「音楽のおくりもの」
題材のデザイン

p.16

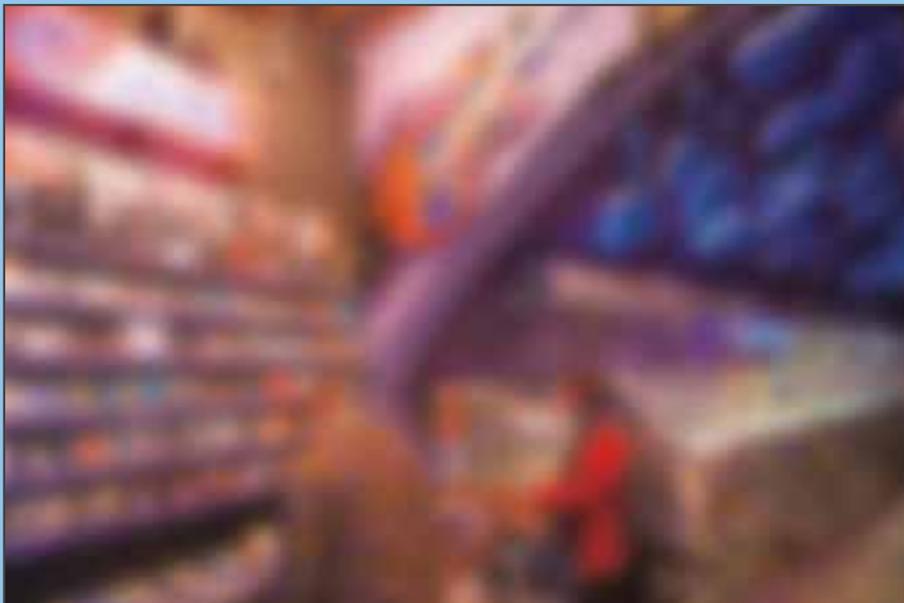
和楽器を使う
授業のコーディネート
作曲家
眼龍 義治

p.12

中学音楽指導資料
「夏の思い出」楽譜
(斉唱および二部合唱)

p.20

「音楽の真実」を
求めて
—時空を越えるウィーン旅行記
横浜国立大学
茂木 一衛



平成 24 年度用 中学音楽「音楽のおくりもの」

楽しい音楽科の授業をしっかりとサポート!

題材のデザイン

「題材のデザイン」は、新しい中学校教科書「音楽のおくりもの」の効果的な活用をめざし、学習指導要領に準拠した実践的な学習内容や学習活動を示しました。さらに、これらに対応する学習評価の設定をご提案しています。

「指導事項と〔共通事項〕の取り扱い」「学習評価の設定」、そして「実際の学習内容や学習活動」などを適切に関連させ、楽しく充実した音楽活動をサポートします。

マテリアルとは?

「マテリアル」とは、教材のことです。中学音楽「音楽のおくりもの」の各教材について、どんな教材性があるかを明らかにすることを、デザインの第一歩としました。

Step 1 マテリアル おきらかにする

教科書各ページの教材性をあきらかにする。

マテリアルの特色

〔共通事項〕を窓口にして、指導のためのヒントを明らかにしました。そして学習をイメージしていただけるように、「主な学習内容と学習活動」をご紹介します。年間学習指導計画や評価計画と関係する「学習指導要領との関連」「学習評価との関連」も明らかにしました。



教科書各頁

ユニットとは？

「ユニット」とは、題材のことです。ここでは、より実践的な学習内容や学習評価の設定についてご提案します。

プランとは？

「プラン」とは、指導計画のことです。学習指導要領の取り扱いと学習評価の設定について検討しました。

Step 3 ユニット デザインする

Step2のプランにそって、A～I(2・3年はA～H)のユニットをデザインする。

→本書 p.8

ユニットの特色

歌唱の教材では、斉唱→二部合唱→三部合唱と、歌い合わせる喜びが段階的に感じられるようにデザインしました。また、**歌唱と創作の教材**をつなげることで、イメージをもって簡単な旋律を楽しみながらつくり、表現することができるようにデザインしました。**鑑賞の教材**では、じっくり聴き深められるようにデザインしました。

Step 2 プラン つなげる

Step1のマテリアルを、指導事項と(共通事項)に即してつなげる。

→本書 p.6

プランの特色

中学音楽「音楽のおくりもの」の各教材は、**その教材だけを取り扱うことも、いくつかの教材をつなげて取り扱うことも可能です。**教師用指導書(解説編)では、教材性を生かした効果的なプランをご提案します。学校の実態に合わせて、合唱や器楽などの学習を充実させることができるように、配当時数も工夫しました。

ユニットの
組み合わせは自由自在！
先生方がねらいとする
学習に応じてデザイン
してください！



マテリアルをみてみましょう!

教科書のマテリアル(教材)をみてみましょう。マテリアルを選択する目的や意図を明確にしていますので、実践的な学習内容や学習活動をご検討いただけます。

夏の思い出

さまざまな音楽文化
— 日本とアジア —

題材名	日本語の抑揚を大切にした歌
活動のポイント(ねらい・目標)	歌詞の内容から情景を思い浮かべ、 曲想 を感じ取って歌おう。 言葉の抑揚やリズム と、 旋律 とのかかわりを感じ取って歌おう。

● **〔共通事項〕の取扱い例**

曲想 ▶ リズム、速度

四分の四拍子や「♩♩♩♩」などのリズムや速度を知覚し、特質や雰囲気を受感することを取り扱います。また、 \circ による速度の変化も取り扱い、曲想と関わらせながら表現を工夫することが考えられます。

言葉の抑揚やリズム ▶ リズム、旋律

言葉の抑揚やリズムと対応して順次進行を基本とした**譜例1**の旋律を知覚し、特質や雰囲気を受感することを取り扱います。これと比較して、**譜例2**では音が跳躍している旋律を知覚し受感して、表現を工夫することが考えられます。

また、1番と2番の歌詞の違いによって、言葉のまとまりやリズムが変化していることを取り扱うこともできます。

譜例1

譜例2

旋律 ▶ 旋律、強弱、形式

繰り返される旋律や変化する旋律を知覚し、特質や雰囲気を受感することを取り扱います。これらは強弱の設定や二部形式と関連するため、一緒に取り扱うことも考えられます。

● **主な〔共通事項〕の取扱い**

ア	音色		テクスチャ	
	リズム	言葉のリズム、四分の四拍子	強弱	強弱の設定
	速度	速度の設定	形式	二部形式
	旋律	言葉の抑揚とかかわる旋律	構成	
イ	用語や記号	pp, am., \circ , 三連符		

▲指導書1年 p.112

注!
その1

〔共通事項〕の取扱い

「活動のポイント(ねらい・目標)」と対応した〔共通事項〕の取扱いを明らかにしています。その具体を「〔共通事項〕の取扱い例」として示し、「主な〔共通事項〕の取扱い」では、それを〔共通事項〕アとイに分けて整理しました。なお、この表は、実際の学習活動を想定し、主に取り扱うものを焦点化し整理したものです。

注目!

その2 教材を単独で取り扱う際のヒント!

「〔共通事項〕の取り扱い例」を踏まえ、「**主な学習内容と学習活動**」には、教材を単独で取り扱う場合の例を示しています。なお、配当時数は生徒の実態などに応じてご検討ください。

▼指導書1年 p.113

■ 学習の展開について

主な学習内容と学習活動

主な学習内容	主な学習活動
①歌詞の内容を理解し、旋律を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞を音読するなどして内容を理解し、情景を想像する。 冒頭4小節の旋律が繰り返されていること、途中で旋律が変化すること、最後に再び似た旋律が表れることを確かめながら歌う。
②言葉の抑揚やリズムと、旋律とのかかわりを感じ取る。	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の抑揚による音の高低(隣音への移動)を感じ取りながら歌う。 最後の「はるかなおぜ とおいそら」の部分について、音の移動の仕方(跳躍)を確認し、表現を工夫する。 へや強弱の設定を理解して、表現を工夫する。
③二部形式を確認し、速度や強弱の設定、発音に注意して表現を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 4小節ごとに旋律の反復や変化などを確認する。 鼻濁音の発音となる「ガ行の言葉」に印をつけ、表現を工夫する。 楽曲全体の速度や強弱の変化による曲想を感じ取りながら歌う。

学習指導要領や学習評価との関連

速度や強弱の設定、二部形式による楽曲全体のまとまりなどから曲想を感じ取りそれらを生かして表現を工夫する学習が計画できます。

■ 学習指導要領との関連

A 表現									B 鑑賞		
(1) 歌唱			(2) 器楽			(3) 創作			ア	イ	ウ
ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ			
○	○										

■ 学習評価との関連

音楽への関心・意欲・態度	歌詞の内容や曲想、言葉の特性に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
音楽表現の創意工夫	リズム、速度、旋律、強弱、形式などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を感じ取り、言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
音楽表現の技能	歌詞の内容や曲想を感じ取り、言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。
鑑賞の能力	

注目!

その3 学習指導要領や学習評価への具体的な取り組み

教材を単独で取り扱う場合でも、「**学習指導要領や学習評価との関連**」は適切なものが求められます。ここでは、可能性ある内容を網羅するように示しています。実際に授業を行う際は、これらの内容を焦点化・重点化する必要があると考えます。

Step 2
プラン

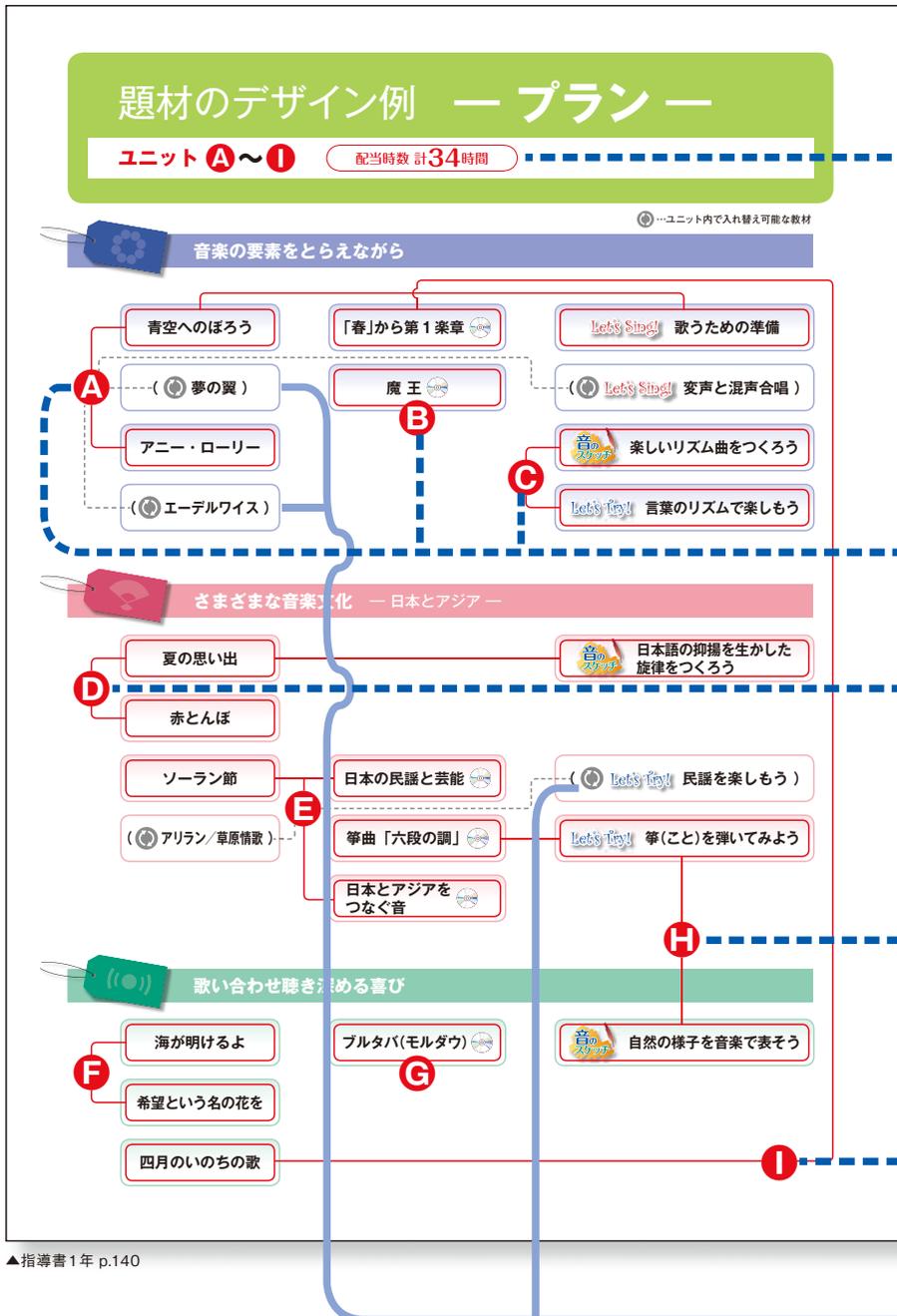
プランをみてみましょう!

題材のデザイン例 — プラン —

ユニット **A** ~ **I**

配当時数 計34時間

④…ユニット内で入れ替え可能な教材



▲指導書1年 p.140

注目! その1

配當時数の設定

各学年の配當時数は、【第1学年 34時間】【第2・3学年 28時間】となります。これは、各学年の年間授業時数を下回りますが、**学校の実態に合わせて表現や鑑賞の学習を充実させる**ことを前提としているからです。

例えば、合唱する場面がある学校行事を踏まえ、**ユニット⑩の教材や配當時数を変更したり、もう一つ別ユニットを追加したり**することが考えられます。「和楽器を用いた学習を充実させたい」「じっくり聴き深める鑑賞の時間を多く確保したい」などの様々な目的に対応するものです。

注目! その2

ユニット①～③ = 【音楽の要素をとらえながら】

プランの基本的な枠組みは、教科書の【音楽の要素をとらえながら】【さまざまな音楽文化】【歌い合わせ聴き深める喜び】の三つの柱(テーマ)です。

特に、各学年の**ユニット①～③**は、1学期(または前期)の学習として取り扱うことで、**表現と鑑賞の学習がバランス良く行われる**ように工夫しました。これは、学習評価を意識したもので、「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」「鑑賞の能力」の**四つの観点が適切に設定できる**ように工夫したものです。

そして、各学年の**ユニット①～③**の配當時数は、第1学年が計12時間、第2・3学年が計11時間となるように計画しています。

注目! その3

歌唱、器楽、創作、鑑賞のそれぞれが関連し合うユニット

それぞれの領域・分野が関連し合うことで、学習の効果や効率を高めることをめざします。**ユニット④**は、「夏の思い出」と「赤とんぼ」を**言葉の旋律とのかかわり**を感じ取って歌唱します。この**歌唱の学習を生かし**、「日本語の抑揚を生かした旋律をつくらう」で、**言葉の抑揚や音階の特徴を生かして旋律をつくり**ます。さらに、この**創作の学習を生かし**、**歌唱表現を高める活動**を設定します。

ユニット⑤や⑥は、歌唱、器楽、創作、鑑賞を関連付けるだけでなく、三つの柱(テーマ)を越えて関連付けたものです。

注目! その4

ユニット内で入れ替えの可能な教材

各学年では、入れ替えが可能な教材を準備しています。

ユニット⑧は、「民謡を楽しもう」で取り扱っている「**こきりこ節**」を選択することができます。そうした場合、歌唱教材「ソーラン節」と入れ替えたり、教材を追加したりすることができます。

ユニット⑨も同様に、「**夢の翼**」「**エーデルワイス**」を選択することで、より豊かな歌唱表現をめざした活動を設定することができるように工夫しました。

ユニットD 【A表現(1)歌唱/A表現(3)創作】

配当時数 3 時間

さまざまな音楽文化
— 日本とアジア —

A表現(3)創作

言葉の抑揚や七五調による歌詞のまとまりを生かし、順次進行による旋律をつくります。この、言葉の抑揚を生かして旋律をつくる学習は、「夏の思い出」の学習を発展させたものです。こうした【A表現(1)歌唱】と【A表現(3)創作】が関連した題材をデザインすることは、それぞれの学習が深まることをねらって計画するものです。



日本語の抑揚を生かした旋律をつくらう

題材・ねらい

言葉と旋律とのかかわりを生かして表現を工夫しよう

夏の思い出

赤とんぼ

A表現(1)歌唱

歌詞の内容を理解し、言葉と旋律とのかかわりを感じ取って表現を工夫します。「夏の思い出」では、順次進行による旋律、旋律のまとまりや二部形式などを理解して表現を工夫します。また、この学習と関連させて「日本語の抑揚を生かした旋律をつくらう」を取り扱います。「赤とんぼ」では、跳躍進行による旋律と強弱とのかかわり、旋律のまとまりや一部形式などを理解して表現を工夫します。

● 主な〔共通事項〕の取扱い

ア	音色		テクスチャ	
	リズム	言葉のリズム	強弱	強弱の設定
	速度	速度の設定	形式	一部形式、二部形式
	旋律	言葉の抑揚とかがわる旋律	構成	
イ	用語や記号	拍、拍子、フレーズ、音階、 <i>pp</i> 、 <i>dim.</i> 、 \curvearrowright 、三連符 など		

▲指導書1年 p.154

注目!
その1

ユニットの全体計画

各ユニットで、**学習指導要領のどの指導事項を取り扱うか**、おおよその学習内容や学習活動を示すことで、全体計画の概要がとらえられるようにしました。

注目!
その2

〔共通事項〕の取り扱い

いくつかの教材をつなげるユニットで**〔共通事項〕の取り扱いがどうなるのか**、ユニットの全体計画を踏まえ、**焦点化・重点化**を図って整理しました。

■ 題材の全体計画

第1時	言葉と旋律とのかかわりを感じ取って 「夏の思い出」「赤とんぼ」の歌詞の内容や拍子などを理解して、言葉と旋律とのかかわりから特徴や曲想などを感じ取って表現する。
第2時	言葉の抑揚や音階の特徴を生かして 言葉の抑揚をとらえ、その高低に応じて音を選択して短い旋律をつくる。また、選択する音を五音音階の構成音から選び、音階の特徴を生かして旋律をつくって表現する。
第3時	言葉と旋律とのかかわりを生かして 「夏の思い出」「赤とんぼ」について、言葉の抑揚と旋律のかかわり、強弱の設定や形式などを生かして表現を工夫する。

注目!
その4

学習指導要領や
学習評価への
取り組み

ユニットで取り扱う学習指導要領の指導事項の取り扱いを整理しました。これは、年間学習指導計画や評価計画と密接に関係します。

また、学習評価の設定も、ユニットでの設定を明らかにしました。こうした指導と評価が一体となった計画は、今後、ますます重視されると予想されます。

■ 学習指導要領との関連

A 表現									B 鑑賞		
(1) 歌唱			(2) 器楽			(3) 創作			ア	イ	ウ
ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ			
○	○					○	○				

■ 学習評価との関連

音楽への関心・意欲・態度	歌詞の内容や曲想、言葉の特性や特徴、反復、変化、対照などの構成に関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫して歌ったり音楽をつくったりする学習に主体的に取り組もうとしている。
音楽表現の創意工夫	リズム、速度、旋律、強弱、形式などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想、言葉の特性や特徴を感じ取って音楽表現を工夫したり、反復、変化、対照などの構成を工夫したりして、どのように歌ったり音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。
音楽表現の技能	歌詞の内容や曲想、言葉の特性や特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌ったり音楽をつくったりしている。
鑑賞の能力	

実践!

第2・3時の展開例は次頁に紹介しています。

注目!
その3

学習展開のヒント!

各ユニットで、どのような学習が展開されるか、学習評価とともに概要を示しました。

「学習の内容」「生徒の活動」「教師のかかわり」「主な評価」を示すことで、具体的な授業をイメージできるようにしました。

■ 第1時の展開例

1. ねらい

言葉と旋律とのかかわりを感じ取って表現を工夫する。

2. 学習の展開と評価

□学習の内容	○生徒の活動・教師のかかわり
①「夏の思い出」「赤とんぼ」の歌詞の内容を理解し、表現する。	○「夏の思い出」「赤とんぼ」の歌詞を音読し、内容を理解したり情景を想像したりする。 ・「A Message for You」を取り上げ、作詞者の思いなどを理解させる。 ○「夏の思い出」「赤とんぼ」の曲想の違いに気付きながら、それぞれを斉唱または独唱で表現する。
②「夏の思い出」「赤とんぼ」の拍子や速度、調などを比較し、曲想の違いを感じ取って表現する。	○歌唱表現を通して感じ取った印象や雰囲気などを、ワークシートにまとめ、発表交流する。 ○拍子や速度、調などの違いを楽譜で確認し、表現しながら理解する。 ○それぞれの曲想を感じ取って、再度、斉唱または独唱で表現する。
③言葉と旋律との関係を理解して、表現を工夫する。	○聲の音への動き方の違い(順次進行・跳躍進行)を理解して表現する。 ・「夏の思い出」については、教科書 p.16 作曲家からの「A Message for You」を取り上げる。 ○ワークシートの楽譜に表現を工夫することを書き込み、まとめの表現をする。

主な評価

音楽表現の創意工夫

拍子、速度、言葉の抑揚とかかわる旋律、調を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっているか、表現の様子や発表内容から評価する。

■ 第2時の展開例

1. ねらい

言葉の抑揚や音階の特性を生かして短い旋律をつくる。

2. 学習の展開と評価

□学習の内容	○生徒の活動 ・ 教師のかかわり
①身近な風景や出来事などのテーマを決め、七五調の短い歌詞をつくる。	○食べたい物や行ってみたいところ、などのテーマを決めて、七五調の歌詞をつくる。 ・つくった歌詞を交流させ、七五調の歌詞のまとまりを確かめさせる。
②言葉のまとまりや抑揚を感じ取りながら音の高低を線で示し、三音（ミソラ）で旋律をつくる。	○つくった歌詞を、言葉のまとまりや抑揚を工夫しながら表現し、ワークシートの表に記録する。 ○ワークシートに記録した表に基づいて、三音（ミソラ）で表現しながら旋律をつくる。
③言葉の抑揚を生かし、五音音階の構成音（レミソラド）から音を選び旋律をつくる。	○五音音階の特徴を生かして、言葉の抑揚を感じ取りながら音を選択し、旋律をつくって表現する。 ・つくった旋律を交流させ、再度工夫させる。

【音楽への関心・意欲・態度】

言葉の特徴、反復、変化、対照などの構成に関心をもち、それらを生かした音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組んでいるか、学習活動の様子を観察して評価する。

【音楽表現の技能】

言葉の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能（課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方など）を身に付けて旋律をつくっているか、作品の発表やワークシートの記述から評価する。

■ 第3時の展開例

1. ねらい

言葉と旋律とのかかわりを生かして表現を工夫する。

2. 学習の展開と評価

□学習の内容	○生徒の活動 ・ 教師のかかわり
①「夏の思い出」「赤とんぼ」の歌詞と旋律を確認し表現する。	○第1時にワークシートに書き込んだ内容を振り返り、斉唱または独唱で表現する。 ・音符や記号などを確認しながら表現させる。
②「夏の思い出」「赤とんぼ」について、言葉の抑揚と旋律とのかかわりや、曲想を感じ取って表現を工夫する。	○強弱の設定や形式、隣の音への動き方の違い（順次進行・跳躍進行）などを感じ取り、曲想を生かして表現を工夫する。 ・工夫する内容を確認しながら活動させる。
③工夫した内容をまとめ、「夏の思い出」「赤とんぼ」を表現したり、第2時につくった自分の旋律を再度工夫したりする。	○感じ取った曲想や工夫する内容をワークシートにまとめ、それに基づいて斉唱または独唱で表現する。 ○第2時につくった自分の旋律を表現し、手直して提出する。

【音楽表現の創意工夫】

言葉のリズムや抑揚とかかわる旋律、強弱の設定、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受身しながら、言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっているか、表現の様子やワークシートの記述から評価する。

【音楽表現の技能】

歌詞の内容や曲想、言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音など）を身に付けて歌っているか、表現の様子から評価する。

ご提案!

ワークシートの活用

これからの音楽科の学習には、ワークシートや学習カードなどの活用が、ますます求められます。それらは、生徒の学習活動をサポートしたり、学習評価を行う際に活用したり、いくつかの目的によって準備するものです。

教師用指導書（解説編）では、各ユニットでワークシートなどの資料を参考として提示していますが、教科書と教師用指導書に完全準拠した「ワークシート」の活用をご提案します。



◀1年の表紙と本文ページ

「教育出版 中学音楽 完全準拠 中学音楽ワークシート」

各【本体286円】+税

1年：56ページ、2・3年上：52ページ、2・3年下：48ページ

お知らせ

平成18年度～平成23年度用の中学音楽「音楽のおくりもの」2・3学年上に掲載しておりました「夏の思い出」と箏曲「六段の調」は、平成24年度用からは1学年に掲載しております。

平成18年度からお使いいただいている地域でも新2年生のお授業で扱っていただけるよう、「夏の思い出」の楽譜（斉唱および二部合唱）を本冊子（p.12～p.15）に、箏曲「六段の調」の紙面を弊社ホームページにそれぞれ掲載いたしました。是非ご活用ください。

箏曲「六段の調」紙面ダウンロード（無料）

教育出版ホーム <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

中学校のサイト>音楽>指導資料>学年移動教材

mp *pp* *mp* (2番は $\frac{3}{8}$ おおつて) *dim.*

みずばしょう のはなが さいている ゆめみて ほとり
 みずばしょう のはなが におっている ゆめみ ほとり

mp *pp*

p

しゃくなげ とおいそら
 まーな とおいそら

p

mp *p* *p*

2.

$\frac{3}{8}$ (3連符) ... ♪ を3等分する音符

夏の思い出

♩=63 ぐらい

江間章子 作詞
中田喜直 作曲☆

mp

1 なつがく れば おもいだす
2 なつがく れば おもいだす

mp

p

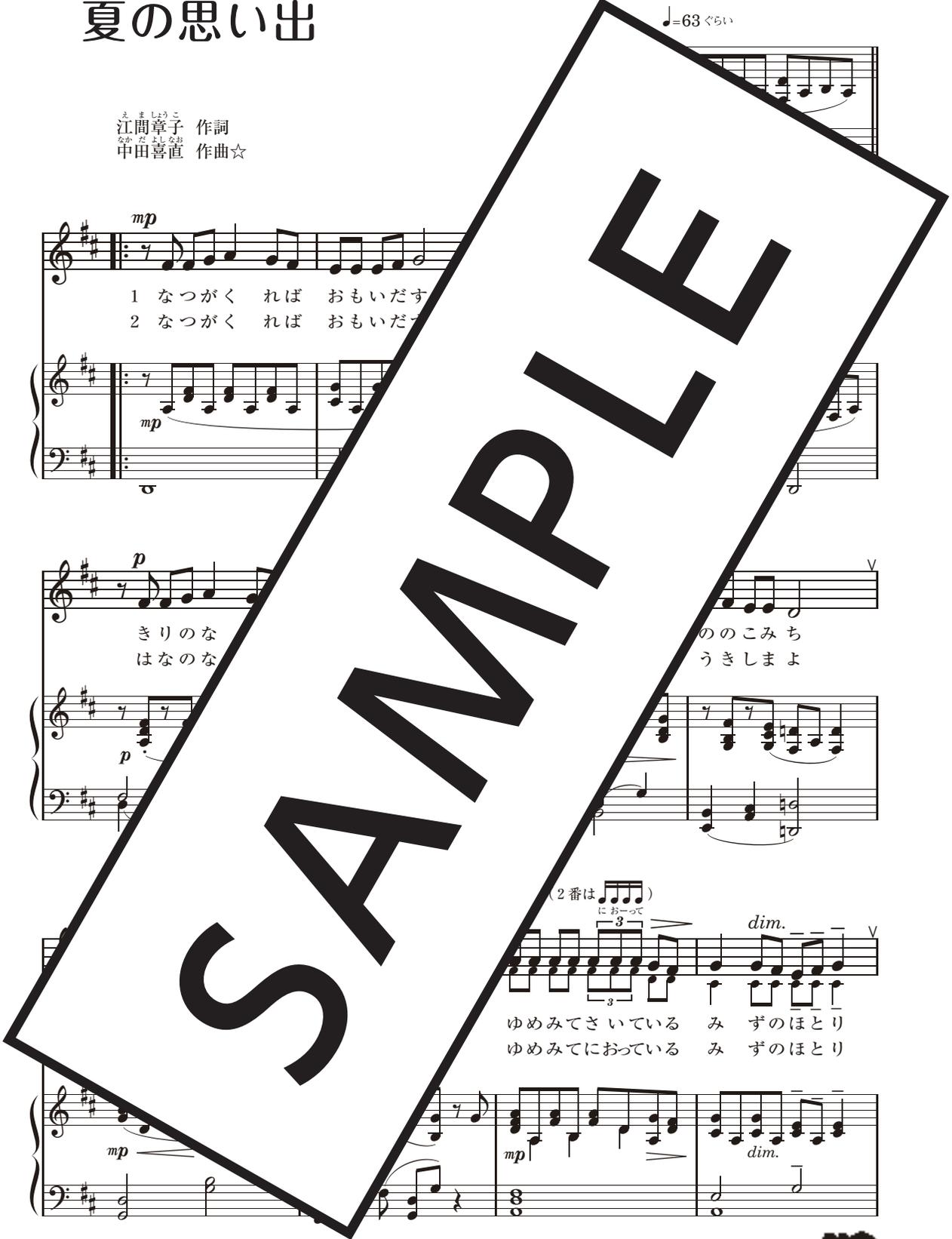
きりのな ののこみち
はなのな うきしまよ

(2番は  におって)

dim.

ゆめみてさいている み ずのほとり
ゆめみてにおっている み ずのほとり

mp *dim.*



p *mf* (v) *p*

しゃくなげいーろに たそがれる
まーなこつぶれば なつかし

SAMPLE

二
夏が
はるか
花のな
ゆれゆれ
水芭蕉の
夢みてにお
まなこつぶ
はるかな尾瀬
尾瀬：群馬、福島、新潟三県にまたがる
日本有数の湿原地帯。
石楠花色：淡紅色。
浮き島：湖沼に浮かんで動く植物や泥
なごててきた島状のもの。

SAMPLE

い出す
い空
のほと
の辺り
のいる
径なる
のくる

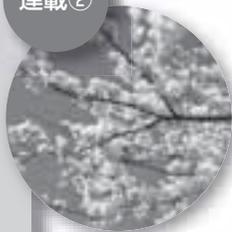
江間章子 [1913-2005]
詩人。新潟県生まれ。

1930年(昭和5年)、県立静岡高等女学校を卒業。深尾須磨子に詩を学ぶ。詩集『イラク紀行』などのほか、「花の街」「夏の思い出」は歌曲として有名。

(3連符) ... を3等分する音符

中田喜直 [1923-2000]
作曲家。東京都生まれ。

1943年(昭和18年)、東京音楽学校(現在の東京芸術大学)を卒業。歌曲、合唱曲など多数の作品がある。「早春賦」の作曲者として知られている中田章は彼の父。



箏を使う授業の実践

はじめに

民族楽器はその民族音階に基づく楽曲が最も演奏し易く、また、その楽器の特性を活かした学習ができます。箏はどのような調弦法も可能な楽器ですが、最初はやはり5音旋法で、特に箏の基本的な調弦法である平調子から導入すべきであろうと思います。

座奏、立奏を問わず、右肩が龍角の延長線上にくる位置に座ります。生田流は40度前後左斜めに向かい、右膝を箏に付けて座ります。山田流は真っ直ぐ正面に向かって座ります。この違いは爪の構造によるものです。

本稿は1面の箏を二人交代で実施した場合、3時間で合奏の体験まで達成できる内容になっています。一人1面で実施する場合は更に効率よく、充実した授業展開ができるでしょう。

箏の特性について

箏は爪で弦をハジイテ演奏する楽器のように思われています。実際にそのように書いてある書籍を時々見かけます。しかし、感覚的には弦を押さえて演奏する楽器です(上級の技法でハジク奏法もあるが)。箏を個人的に習うと、このことが身に付くまでに数週間から数ヶ月かかります。教科授業ではそのような悠長なことは許されません。そこで、最も効率的な方法としてグリッサンドから入る方法にたどり着きました。

中指(3)の爪で1の弦から巾に向かってグリッサンドを弾かせます。次に人差し指(2)でも同様にグリッサンドを弾かせます。その時、爪で弦を押さえる感覚になり、弦の上を滑るように移動し、決して弦から離れません。このことを生徒達にしっかり体感させます。最後に、親指(1)でも同様にグリッサンドを弾かせます(親指から始めるとハジイテしまう)。その時の爪と弦との関わり方をしっかり目で確認し、体で感じ取らせます。

次に、親指と中指でグリッサンドの往復を自由に弾かせます。生徒達は夢中になり、すっかり箏に魅せられてしまいます。今度は、親指のグリッサンドをゆっくり(四分音符の感覚で)奏します。爪は弦から絶対に離れず、弦の上を滑るように移動します。この時の爪の動き方こそが、箏の奏法の基本であり、極めて重要なことです。

筆者は、ここで敢えて間違った奏法も体験させています。親指の爪を跳ね上げながら、ハジイテ巾から1に向かって一本一本正確に弾かせます。どのくらい速く弾けるか体験させます。絶対に速く弾けません。また、音の強さや、リズムの正確さがばらばらになることを体感させます。一見時間の無駄のように思われますが、このことによって箏という楽器の特性を体で覚えることができるので、是非実施して頂きたいと思います。

なお、生田流は斜めに座るため、腕の動きも斜めにする生徒がいますが、爪の位置は常に龍角から2〜3センチの所を真っ直ぐに移動するよう指導します。

※最初から親指で楽曲を弾かせると必ず爪を跳ね上げハジイテしまいます。そして、それを直すために実に多くの時間が浪費されています。

「さくらさくら」を演奏する(1弦をオクターブ低くする平調子)

「さくらさくら」を教材として取り上げる理由は、知っている曲であること、平調子で演奏できることです。さらに、箏は順次進行(旋法上で)する旋律が最も弾きやすい楽器であることです。「さくらさくら」はこれら全ての条件を備えた楽曲です。また、比較的短い曲で、反復部分が多い曲でもあるので短時間の練習で弾きこなすことが可能です。

ところで、箏で楽曲を演奏する場合は親指(1)を主に使いますが、爪を跳ね上げないためには薬指が非常に大切な働きをします。薬指は原則として5本下(向こう側)の弦に掛けます。指先を龍角に付けて軽く弦に掛け、深く掛けないことです。この薬指は親指の移動に添って移動するので深く掛けると移動しにくくなります。親指の爪が薬指に引き寄せられるような感覚で弾きます。薬指を掛けないと爪を跳ね上げてしまいます。なお、薬指の掛け方は流派によってニュアンスが違います。筆者は宮城道雄の孫弟子ですので宮城道雄の指導法を採っています。

それでは、掲載の楽譜について説明いたします。箏の楽譜は本来漢数字で表記しますが、最近では算用数字を用いることも次第に増えてきました。小学校で指導していると、しばしば外国人の児童が在籍しており、漢数字に慣れていません。そこで、昨年度から算用数字を用いることにしました。

左端の①〜⑦は楽譜ではなく、何段目かを表します。授業展開時に、「○段目から繰り返すよ」と指示した時、すぐ対応できるようにと考え、工夫しました。最上段は前奏部で教師が弾く部分なので、0としました。下線部分は八分音符、一は二分音符、○は休符を表現します。算用数字を用いて横書きにすると五線譜の記譜法が活用でき、大変便利です。特に中学生はこの記譜法を非常に気に入ってくれます。

①の脇の四は薬指を掛ける弦を表します（薬指を掛ける弦は本来指示するものではありません。人により手の大きさが異なるので）。学校で指導する場合は同一学年で指導し、手の大きさがほぼ同じと考えられるので統一し、明記しています。但し、絶対ではないことも併せて説明します。③は低い音を弾くので、②の最後（4拍目）で薬指を一に移動します。⑦も低い音から始まりますが、8の音を弾かなくてはなりません。薬指を一にすると届きにくい生徒がいるので、⑦は薬指を移動せずに弾いた方が良くと思います。

以上で「さくらさくら」は一応弾けますが、さらに細部の留意点を記します。①の**778**一を弾いた時、一の部分で親指の爪を弦（7）から離さずに待つことが非常に大切です。箏は爪を弦からなるべく離さないことが原則ですが、特にこの場合は爪が次に弾く音を準備しています。離さなければすぐ次の音が弾けますが、離すと改めて7を見て確認しなくてはなりません。

②の**789**は爪を上げなくては弾けませんが、**987, 876**は爪を滑らせる感覚で弾きます。グリッサンドと同じ奏法になり、爪を弦から離していきません（どうしても離す生徒がいますが根気良く指導します）。②の最後（4拍目）で薬指を一に移動する時も、親指の爪を離さずに移動します。親指の爪は③の最初の音（5）を準備しています。親指を5弦に掛けたまま、それを支点として薬指をいっぱいに広げれば自然に（見なくても）一に掛かります。このことは極めて大切なことなので、何度も繰り返し練習させます。数回練習したところで、②～③を「目を閉じて弾いてみよう」と言い、実施します。生徒達はびっくりしますが、爪を弦から離さなければ弾けます。これをマスターすると益々箏に夢中になります。

箏は親指の爪と薬指の関係が如何に大切かを、体で覚えさせます。ここまで練習した上で改めて、通して演奏すると最初演奏した時より楽に、しかも安定した音で演奏できます。時には、部分的に目を閉じてチャレンジする生徒がいます。

「基本奏法」の練習

この楽曲（P.17楽譜右側参照）は、親指を押さえて弾くための練習曲です。各段の始まりは全て**5**または**7**になっています（**5, 7, 10**に印を付けておくとよい）。薬指は一に掛けたまま移動せずに弾けます。①は爪を押さえるだけで簡単に弾けます。②～⑤は同音を弾き直しつつ、押さえて弾く要素を含みます。⑦の最後は**1**の弦を弾くので薬指をずらし、箏の磯に掛けて演奏します。この時、**1**を弾いた後すぐ薬指を一弦に掛けると響きが消えてしまいます。箏は基本的に弾いた後の響きを大切にする楽器です。薬指を磯に掛けたまま、**135**を弾くように指導します。大勢で弾いていると中に間違っただけの生徒がいても分からないので、教師が一人で弾き分けて確認します。また、薬指を二弦に掛けると中指で簡単に**1**が弾け、そのまま親指で**35**が弾けます。

この楽曲は各段の始まりが必ず**5, 7**になっており、非常に簡単に弾けるように創ってあるので、初見でも弾けます。「初見演奏はプロがやる方法だよ！」と言って試させると喜んでチャレンジします（各段の始まりの弦だけ見て確認すれば、後は手元を見ないで演奏できる）。

「合奏してみよう」

さて、「基本奏法」は練習曲であり旋律がないので、これだけを何度も弾いていると飽きてしまいます。それを考慮し、「さくらさくら」と合奏できるように創ってあります。すぐ合奏ができます。次に、もっときれいな響きで合奏するため伴奏部の音色を変えます。薬指を龍角から10センチほど離して掛けると、弦の中ほどで弾くことになり、音が柔らかくなります。この方法で合奏すると旋律がくっきり引き立ちます。さらに柔らかい音で弾きたい時は、爪ではなく肉指で弾くテクニックもあり、教えてあげると喜んでチャレンジします。箏は音色を簡単に換えられる楽器です。

※筆者は、音色の変化はすぐには説明しないことにしています。生徒たちに目を閉じて心で聴きなさいと言って、教師が5の弦を龍角のすぐ近くから柱の近くまで、少しずつ移動しながら弾いて聴かせます。そして、生徒がどのように感じたかを答えさせています。

「チャレンジしてみよう！」について

①は親指を10まで広げ、押さえれば簡単に弾け、自然に次の音に戻ってきます。薬指が四で届きにくい場合は五にしてもいいです。

②は押し手を知ってもらいたくて挿入してあります。押し手は左手の親指をL字型に広げ、それを押したい弦の柱の数センチ左に置いて確認し、人差し指と中指を揃え、その二本の指で下(箏の板)に向かってしっかり押します(この時には親指は離れてよい)。斜めに押すと、柱や箏が動くので、真っ直ぐ下に向かって押すことが大切です。また、柱から遠くなると音が十分に高くなりません。なお、押し手の記譜法は流派により異なりますが、この片仮名表記法は、ヲは半音(＃)、オは全音(ダブル＃)高くします。押し手を正確に表現するには、ある程度の訓練が必要です。短時間の体験では正確にできなくても止むを得ないでしょう。調弦法に無い音を作ることができる楽器であることを知ってもらいたくて挿入しています。「さくらさくら」の楽譜の④～⑤で実施すると効果的であり、⑥への繋がりも簡単にできます。

最後に

初めて箏を学ぶ時は指の形や、爪と弦の関わりが良く見えないと正しい学習ができません。伝統音楽の分野は、教室で大勢を対象に指導した実績がほとんど無く、指導法が確立されていません。箏を床に置いたり、立奏台に置いて説明すると、後方の生徒には手の形や爪の様子がよく見えません。

そこで、筆者は箏をギターのように抱えて指導しています。これを「教育流」奏法とって紹介しています。女性の先生方にはいささか無理かも知れませんが…。

なお、品川区立小学校で「さくらさくら」を体験し、中学校でさらに体験する生徒達には、中田喜直作曲「夏の思い出」を二部合奏に編曲し、実施しています。



品川区立旗台小学校の授業 (2011.10.12.)

「音楽の真実」を求めて

連載
第1回

——時空を越えるウィーン旅行記

横浜国立大学 茂木 一衛



皆様は《2001年 宇宙の旅》という映画をご存知でしょうか。その中に、地球周回軌道上の宇宙ステーションにシャトルが近づくシーンがありました。ウィンナワルツの名作《美しく青きドナウ》が悠然と流れ、ドーナツ型の特大ステーションが画面いっぱい回転する様は圧巻の一言でしたね。

本編の主人公、悠美は、そんなステーションがさらに巨大化し、何千人もが暮らすスペース・コロニーで生まれました。ときは2112年。そう、今から百年後のお話。平均寿命はさらに伸び、今の小中高生もまだ生きていて、この物語を目撃することになるかも知れません。

…やがて月面上の太陽系連合大学で音楽と芸術を専攻した彼女は、音楽を指導する立場になり、この時代、22世紀の音楽文化の衰えに危惧の念を抱きます。そして音楽と芸術のルーツを求めて、人類のふるさと、青き地球に向かいます。行った先は永遠の音楽の都ウィーン。当地ではこの時代にも、昔ながらの会場でまだ盛んに音楽活動が行なわれていました。彼女がここでどんな体験をしたか、永遠の都で出会う人々とは、そして「彼」は来てくれるのだろうか…、悠美のウィーン旅行記を綴ります。{このお話は筆者が昨秋、彼の地を訪れたときのドキュメントや資料をもとに構成しています。そして悠美は拙著《音楽宇宙論への招待》(春秋社)* から抜け出し変身したヒロイン。旅の現実と夢、音楽の未来像が交錯する世界(ラブストーリー!?)をお楽しみください。}

響きを越える音楽が聞こえる

悠美は今、ウィーンのリック(環状道路)沿いにどっしり構えたウィーン国立オペラ座でモーツァルトのオペラ《ドン・ジョヴァンニ》を観ていた。つい先ほど、夜の帳が降り淡くライトアップされたオペラ座の外観の美しさに思わずため息をついたばかり。エントランスホールから中央階段吹き抜けへと進み、ドビヤシヨフスキーの絵画やガッサーの手になる彫像はじめディテールまで内装を施された豪華さに目を見張ったところ。そして《ドン・ジョヴァンニ》は1869年の当オペラ座こけら落としの記念すべき演目…。とは言え、22世紀のこの時代、オペラ上演では、大がかりな舞台装置は姿を消し3Dのプロジェクタ映像が使われていた。おかげで制作予算を気にし時代を無理に22世紀に設定する演出の必要もなく、観客はリアルな3D映



▲ウィーン国立オペラ座内部

像からモーツァルト当時のロココ風で華やかな装置や衣裳を存分に楽しめた。

おまけに100年前のロック・コンサートでと同じくキャストの顔は大写しにされ、しかも22世紀の今では立体映像！…ドン・ジョヴァンニの地獄落ちの場面では、彼の苦悶の表情が騎士長の石像の峻厳なそれと交互に突き出て観客に迫る。神童の音楽の凄まじいサラウンド・サウンドと相まって人々の心胆を寒からしめていた。悠美はそれをスペースコロニー内の小ぶりの音響映像システムでのミニ・オペラ体験と比べながら、音楽の都に本当にやってきたことをひしひしと感じていた。その迫力に酔いながら、歌い終えたキャストへの万雷の拍手に圧倒されながら、…でも彼女は何かしら抵抗感も抱いていた。はたして、この拍手は誰に向けられているのだろうか…。



▲聖ペーター教会外観

抵抗感の正体は、翌日の宵、聖ペーター教会でのヴァイオリン・リサイタルを聴いたときにはっきりした。ウィーン中心部の繁華街グラーベンから北に少し入ったところに立つこの教会は街で最古の歴史を持つ教会の一つ。悠美は学生時代に月面上でオーケストラや合唱の一員として演奏していたが、そのとき3D音響映像システムでシミュレートされていたのがこの教会の内部空間と音響効果。バロック時代の名建築家ヒルデブラントにより建造されたとされる当教会は、今、悠美の月面での体験のままに、見事な内陣を誇っていた。彼女は宗教画や彫刻の美しさに目を奪われる。

「でも、何が違う…」悠美は思う。ここには、シミュレーション空間とは異なる何か独特のオーラ（オーラ）が立ちこめている…。やがて彼女はその美しさが、光の当たり方によるところが大きいことに気づく。キャンドル風のLED照明が宗教画に陰影を与え、絵画中の人物像は生き返るかのよう…。「光が人を生き返らせる…」その直観が的を射ていたことがすぐわかることになる。

祭壇前で演奏されたJ.S.バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタの何と美しかったことか！豊かな残響が、時空を貫いて流れる珠玉の旋律に馥郁としたハーモニーと余韻を与え、神秘的な内陣の壁に滲みいる。…次第に響きに取り込まれていく悠美、…光に照らされ蘇ったかの宗教画中の人々の生き生きとした表情に刺激され、やがて彼女の意識の中に一人の人格が立ち現れた。…それは…大バッハ。そう、まさにこの音楽を世に生み出した人。

「そうだ、作曲者！」…夢のような響き、内陣の美しさ、演奏者の優れた技術、全てを越えて、それらの奥にバッハその人がくっきりと立ち現われたのだ。バッハがウィーンにきた記録はないが、今、確実に彼女の心には、やってきた。…「目の前の演奏の現実にはばかり気を取られて、『本当に芸術作品を生み出した人』を忘れていた。…私たちが心の底から感動させてくれる作品を生んでくれた人にこそ、まず深く感謝しなければ。…今まではそれは建前だけだった…」

と、そのとき、どこからか悠美に語りかけてくる声が聞こえた気がした。優しい女性のような声。

「…悠美さん、ようやく『心底から』そのことに気づきましたね。旅の始まりです…」

悠美は辺りを見回し、姿なき声に尋ねる。「あなたは誰？」

「私は、あなたに見える光の中にいます。…」「え、どこに？」

「今、あなたはそれを私に問う必要はありません。…それに、あなたが今気づいたことについては、ある青年があなたをしかるべき場所に導き、応じてくれるでしょう。…」

それきり優しい声は聞こえなくなった。…

聖堂と青年——二つの出会い

次の日の昼下がり、悠美は、ウィーンの銀座通り、ケアントナーシュトラーセを散歩していた。オペラ座から続く通りの喧騒の中、ザッハートルテなどケーキの店、CDショップ、舞踏会用衣装の店などを眺めウィンドウショッピングを楽しむ。「あ、あのガッセ（路地）を入ったところにきれいなカフェがあったな。メラランジェ（ウィーンっ子が普段飲んでいるコーヒー）がおいしかった…」ベンチで小休止する人々、すれ違ってお爺さんとお婆さんのカップルはみな手をつないでいる。「この地で見かけるお年寄りは仲が良くてうらやましい…」



▲シュテファン大聖堂

悠美は、観光地ウィーンのそんな日常を見ながら、ふと昨夜のリサイタルでの不思議な体験を思い出す。

「あの声は一体何だったのかしら。…それに私を導く青年って、…そんな人いるはずないでしょう」

地下鉄3番への入口を越すとウィーンを中心、大聖堂前の広場に着く。ヨーロッパの多くの街は聖堂や教会を中心に同心円状に形成されている。ウィーンもそう。「とにかく聖堂にご挨拶しなくちゃ」

中世以来の古い歴史を持ちゴシック様式の外観とバロック様式の装飾で特徴づけられるシュテファン大聖堂、ウィーンの心臓とも言われ、音楽の都に来た人は必ず訪れ、この地で暮らせば何度も足を運び聖堂と深い関係を結ぶ。音楽家たちも例外ではない。モーツァルトはここで結婚式を挙げ、聖堂付きアンサンブルの副楽長となり、彼の葬式も聖堂裏側の十字架礼拝堂で執り行われた。

聖堂の西側ファサード、リーゼン門から聖堂内に足を踏み入れたところで悠美はしばし佇む。暗い内陣、ひんやりした空気の感触、見上げるとはるか上方のくすんだステンドグラスから淡い光が射し込んでいる。

「何て厳かな空間でしょう！」彼女は言葉が続かない。

聖堂東側にある初期バロック様式の中央祭壇は遠すぎて細部は見えない。その前で何かアンサンブル演奏のプローブ（リハーサル）が行なわれているらしい。手前の洗礼者聖ヨハネの祭壇から堅牢な石の柱が天上へと立ち上がっている。林立する巨大な石柱群。それらで支えられた荘厳な小宇宙に、管弦楽と声楽によるハイドンのミサ曲の清澄な調べがこだまする。リリック・テナーの甘い歌声に耳を傾けながら彼女は思う。

「その青年ってどんな人…？…いけない、つまらないことをまた思い出してしまった」

彼女は余計な想念を振り払うかのように聖堂を出る。…まばゆい光と外気で現実に戻った悠美の目にとまったのは、広場の端に置かれた白い像だった。薄いパープル色の台座上の椅子に鎮座し、楽譜とペンを持って彼方を見遣るその像に悠美は見覚えがあった。

「あれはシューベルト…。でも、あのシューベルト像はたしかシュタットパルク（市立公園）の中にあったはず…」ウィーンの街の東側に広がるその公園は、悠美が昨日の午後、散策したところ。ヴァイオリンを弾く黄金のヨハン・シュトラウス像、そして緑の中に立つシューベルト像がとりわけ印象深かったのだけど…。

そして今、悠美は不思議に思い像に近づく。「そう、たしかにあのシューベルト像、でもなぜここに？」

そのとき彼女は目を疑った。像の右手のペンがかすかに動いた気がしたのだ。「うそ！そんな

な馬鹿な!?」と思い悠美が像の目を見ると、何とその視線は彼方ではなく此方の彼女をじっと見つめていたのだ！悠美は一昨日のオペラ《ドン・ジョヴァンニ》の騎士長の石像を思い出しゾットとする。…その悠美に像は今度は語りかけてきた。ただし騎士長と違い優しい声音で…。「グリユス・ゴット（こんには）、フロイライン・ユミ」

悠美は腰を抜かすほど驚き尻もちをつく。それを見て像は一瞬、ニヤッとしたが、すぐに腰を浮かせ慌てて言う。「あれれ、驚かせてごめん。僕は人間だ。いや、本当は違うけれど…」

意味不明瞭な言葉を発し台座から危なっかしく降りると、悠美の手を取り抱きかかえるように起き上がらせる。「大丈夫？」片膝について挨拶する。「はじめまして、僕は光介。AI（人工知能）です。あなたを導きます」

悠美は混乱する。シューベルト？光介？日本語をしゃべる？人間？AI？「…あなたは一体、何者？」

「僕はここで、見ての通りのアルバイトをして、君が来るのを待っていた」

そう言えばこの聖堂前広場には、生身の人間が像になりすまし通行人を驚かせお金をもらう大道芸人が大勢いるんだ。私は見事に騙されたのか…。

「それ以上は訊かないでほしい、いずれわかるから。…ちょっと待ってて」

そう言うと彼は小走りに建物の陰に入り、まもなく普段着で再登場。化粧も落としていたが、慌てたらしく頬に白い粉があばた状に残った顔は、たしかにアジア人のそれ。でもよく見ると、実はなかなかの美男子…。

「いやあ、シューベルトになりきるのに苦労したよ。彼は身長160センチもないので、座る姿になってみた」

見たところ180センチ近くありそうな光介とやらは、頭をかきながら苦笑した。…こんな人に導かれて私は大丈夫かしら、でもイケメンだし…、ま、いっか。…

「で、これからどうするの？」悠美の問いに、光介は急に真顔になると答えた。

「僕がシューベルトに扮していたのには訳があります。あなたを音楽の真実へと案内するためののです。それはシューベルトの史跡への巡礼から始まるからなんだ」

語る光介の誠実そうな表情を見て悠美は少し安心する。この人に任せて大丈夫そう…。すばやく彼女の気持ちを読み取った光介は言う。「ではまずシューベルトの生家に行きます。18歳で《魔王》を書いた人の原点に」

二人はグラーベンの賑わいの中を北西の方角へと歩き出す。道すがら悠美の脳裏でシューベルト《魔王》の不気味な歌声と激しい三連符が鳴り続ける。環状道路の北西部分に位置するショットェントーアで百年前とあまり変わらぬシュトラーセンバーン（路面電車）38番に乗る頃には、彼女の頭は《野ばら》や《未完成交響曲》のメロディーでいっぱいになっていた。そして、横に座る寡黙な光介がこれからどんな音楽の真実へ自分を案内してくれるのだろうか、悠美は密かに期待に胸をふくらませるのだった。（続く）



▲市立公園内のシューベルト像

*音楽宇宙論への招待（茂木一衛 著、春秋社）

悠美と光介が音楽の真実を求めて時空を旅する物語。光介が創った仮想世界で悠美はケプラーやベートーヴェンと出会い音楽の新しい捉え方を体験する。二人は木星圏へ旅立ち、音楽の本質を知る人？と遭遇する。古代ギリシャ以来の「宇宙の音楽」の世界観を踏まえての冒険です。





第10回 地球となかよし メッセージ 作品募集(2012年度)

おかげさまで、本企画は第10回を迎えることができました。
これまでご参加、ご協力いただいたみなさまに御礼申し上げます。
今年も、小・中学生からの素敵な作品をお待ちしております。

応募期間 2012年7月1日～9月30日
詳細は、ホームページをご覧ください。



第9回 入選作品



真昼の花火

河原に花火が落ちていた
川の中にも落ちていた
燃えながら、燃えさしあちこちに
夜空を彩る打上花火
楽しい思い出線香花火
川の魚も見てたかな
真昼の花火も見に来てよ
水辺を悲しく汚してる
すすけた花火が待ってるよ
川の魚も見てるよ

- 主催/教育出版 ●協賛/日本環境教育学会
- 後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞

*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

届け、
ぼくらの
メッセージ!

ぼくたちの
言葉が合唱曲
になった!!

東日本大震災 復興への願いを込めて
音楽のおくりもの vol.1

子どもたちの詩によるエール

みんなはひとつ



昨夏、教育出版では、被災された児童
生徒の心の支えになることを願い、全国
の子どもたちから応援や励ましのメッ
セージを募集いたしました。

そして、この春、それらの子どもたち
からのメッセージの言葉を歌詞とした合
唱曲を作成いたしました。

この楽曲が広く永く愛唱され、多くの
人々の心に響き渡ることを願っています。

- 楽譜、歌詞の外国語訳(英語、中国語、韓国語、ポルトガル語)付 16ページ
 - CD1枚(ピアノ伴奏付)
 - テキスト構成・作曲 新実徳英
 - 演奏 NHK 東京児童合唱団
 - 定価 1,260円(本体1,200+税)
- *このピースの収益は、震災復興のための寄付とさせていただきます。

お問
い合
わせ

「地球となかよしメッセージ」事務局

Tel 03-3238-6862 Fax 03-3238-6887
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

中学・高校音楽通信 Spire_M [2012年春号] 2012年3月30日 発行

JASRAC 出1202948-201
表紙写真: ©JTB フォト

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光
印刷: 大日本印刷株式会社 発行所: 教育出版株式会社
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- | | |
|-------|---|
| 北海道支社 | 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509 |
| 函館営業所 | 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング 3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198 |
| 東北支社 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395 |
| 中部支社 | 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825 |
| 関西支社 | 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401 |
| 中国支社 | 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040 |
| 四国支社 | 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134 |
| 九州支社 | 〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-49 ヒューリック福岡ビル 8F
TEL: 092-781-2861 FAX: 092-781-2863 |
| 沖縄営業所 | 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411 |